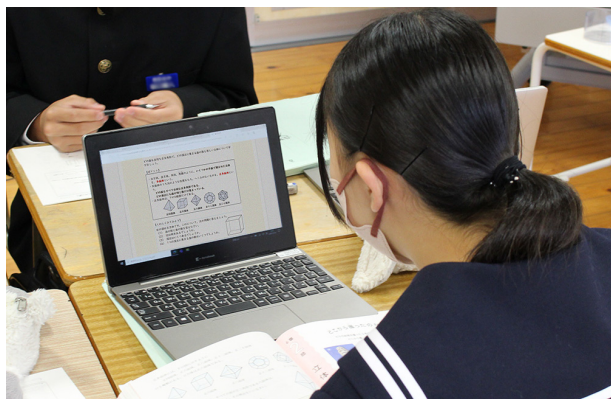




生徒が主体的に学び、学びの成果を実感 ～ 評価基準を設け、生徒の学びを見取る～

西合志中学校では、「夢の実現に向けて、挑戦し続ける生徒の育成」を教育目標に掲げ、学校運営を行っています。今回は、授業での活用とeライブラリの学習結果を学習評価の参考にしている実践をご紹介します。

学習課題のヒントを「解説教材」から調べる



▲ 正多面体の特徴を「解説教材」で調べる

数学 1年：空間図形

めあて 多面体・正多面体の特徴を調べることができる

この日は、全員でめあてを確認した後、学習課題のプリントが配布されました。「わからないところは、空間図形の模型やインターネットで調べて良いです。頑張りましょう」という加來先生のかけ声で一斉に始まります。生徒は、要点のまとまっているeライブラリの解説教材で調べたり、模型で面・辺・頂点を数えたりと、さまざまな方法で図形

の特徴を調べていました。グループワークの時間になると、各々が調べたことを基に友達同士で教え合いが始まり、意見交換がきっかけで気づきが生まれているグループもありました。

授業の終末は、ドリルで定着を目指す



▲ 学習内容の定着にドリルで復習する

授業の終末は、プリントで学習した内容の定着を目指しドリルで復習です。つまりいた問題は、「1回で終わらず、リトライして、100点を目指す」というルールのもと、解説や解答解説を確かめながら、繰り返し学習しています。「eライブラリを活用するようになってから、取組時間や学び直しをしている様子も把握できるようになりました」と加來先生。生徒一人ひとりの理解状況に加え、学びに向かう姿勢も見取れるようになったとのこと。

授業の流れ



めあて・課題の提示

めあてと学習課題の取組方を伝える。



個人ワーク ▶ グループワーク

学習課題のプリントに取り組む。わからないところは、解説教材やインターネット、図形の模型で特徴を調べる。その後、グループで教え合いや考えの共有する。



復習・定着

先生が出題したドリルに取り組む。



ふりかえり

学習内容をふりかえり、気づきや感想を発表する。

学年ごとのグループに課題を出題し、評価基準の土台作り

学習指示状況

全ての学習指示 クラス別へ

グループ 令和5年度1年生 期間 2023年度1学期

MY学習指示 全ての学習指示

状態	種別	内容	期間	対象	実施状況
終了	ドリル学習 期間限定	夏休みの課題【数学】①正負の数～正負の数の加法と減法 素数 など26教材	2023/07/04～ 2023/09/15	全員	125/130
終了	ドリル学習 期間限定	夏休みの課題【数学】②正負の数の乗法と除法～正負の数の 四則計算と利用 乗法の考え方 など26教材	2023/07/04～ 2023/09/15	全員	119/130
終了	ドリル学習 期間限定	夏休みの課題【数学】③文字を使った式 文字を使った式 など11教材	2023/07/04～ 2023/09/15	全員	115/130
終了	ドリル学習 期間限定	【国語】夏休みの課題「文法・言葉の単位」 文節 など2教材	2023/07/08～ 2023/09/28	全員	125/130

▲ 各学年をグループに登録して課題を出題

学年ごとに課題を出題するために、「グループ管理」を使って、学年ごとのグループを作成しています。教科担任制の中学校では、学年単位で同じ教材を効率よく出題でき、eライブラリの活用状況による評価基準のずれもなくなるということです。また、加來先生は、出題する問題のレベルや内容を統一することで、一つの基準を設けており、公平性をもった評価になるよう運用の工夫していました。

取組状況を評価「主体的に学習に取り組む態度」の参考に

個人別概況（クラス全体）

学年 中学1年 クラス 2組 氏名: -

学習学年 中学1年 教科 数学 期間 2023年度1学期

教科別履歴 取組姿勢 学習行動 CSV

学習結果を書き出して
校務支援ソフトへ貼り付ける

氏名	実施回数	平均点	ドリル	解説教材
氏名	6	80.7	289	10
氏名	6	93.7	282	19
氏名	5	78.4	224	2
氏名	3	85	349	27
氏名	2	57.5		

▲ ドリルと解説教材の「学習回数」を参考にする
【成績管理へ】→【個人ビュー】→【教科】【期間】設定

数学では、出題した課題の学習回数を学習評価の「主体的に学習に取り組む態度」につけています。「勉強が苦手な生徒にとって、難しい問題に取り組ませることが個別最適化なのかと疑問を感じていました。自分にとって必要な学習に向かう姿勢を、しっかり評価したいと思い、学習回数を見取ることにしました」と加來先生。頑張った分、評価に反映することもあり、生徒は、これまで以上に主体的に取り組むようになったということです。

インタビュー 生徒の主体性を育むため「生徒が主語」に



校長
田崎 英明 先生

本校では、『認め、ほめ、励まし、鍛えて伸ばす』をテーマとし、教職員が生徒の育成に取り組んでいます。日々、心がけているのは「生徒が主語」になることです。人に指示されるだけでは、どのような活動も長続きしないため、生徒を主体にさまざまな活動をしています。最近では生徒会と児童会が学習規律をテーマに、学習しやすい環境づくりについて討論会をしました。

eライブラリは、授業の導入とまとめ、家庭学習、最近では朝自習で活用しています。朝自習は、基礎基本の徹底や用語の確認を目的に、教科ごとに曜日を決めて取り組んでいます。また、**eライブラリは教材数が豊富で、紙教材を購入しなくなった教科もあり、教材費を抑えることができました。さらに、教材準備や採点の時間短縮など、教員の働き方改革にもつながりました。**

自分に合った教材を学習することで、学習意欲も高まる

これまでの紙教材では、ただ答えを写すだけの生徒もいましたが、**eライブラリを活用してからは、「考えてみよう」「やってみよう」と学習意欲が高まっています。また、教材が難易度ごとに分かれており、自分に合った教材で繰り返し学習できるので、学力低位層から中位層の生徒にとっては、取り組みやすい教材だと思えます。**生徒同士の会話からも「どうしてそんなにできるようになったの?」「ここに解説があるから読めばわかるよ」というやり取りが聞こえてきます。**同じくらいの学力の生徒同士が自分の成功体験を共有し合うことで、自然と学び方も身についてきました。**



数学・情報担当
加來 直之 先生

I eライブラリ活用の効果検証



▲ 一問一問、よく考えて取り組む

1年生の理科では、前期期末テスト（9月）と後期中間テスト（11月）の間に、eライブラリを朝学習で活用し、学力の変化を確かめました。

学習するときは、学習規律として『学習に関係のある使い方をすること』を徹底しています。紙教材と同様で、考えずに答えを選ぶのではなく、自分で調べたり、友達同士で思考したりしながら取り組むことが大切と伝えているとのこと。

取組方法

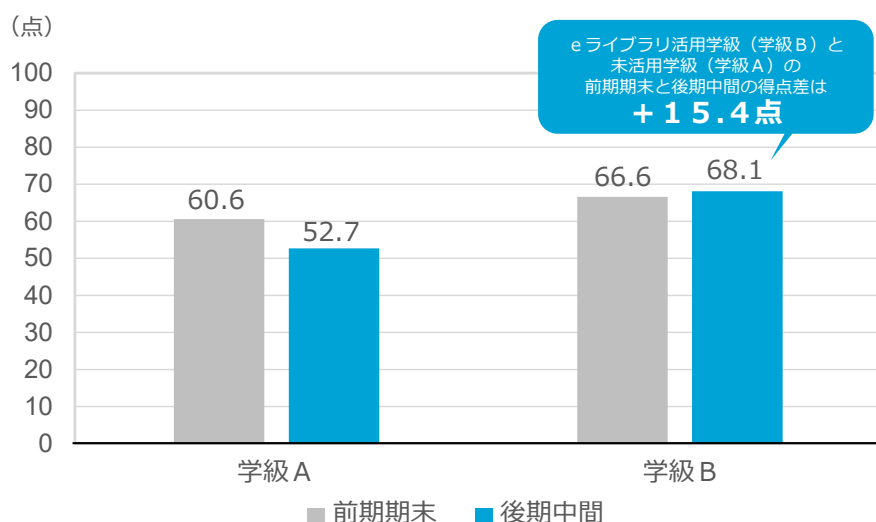
- ドリルは1回で終わらず、リトライをして100点を目指す。
- 5日間、連続して同じ課題に取り組む。
- 学級の正答率が80%以上の人が8割以上になったら、次の課題に取り組む。

検証条件

- 「学級A」と「学級B」の2クラスを比較する。
- 同じ教員が、同じ授業を実施する。
- **学級Bのみ、担任が中心となり、朝自習にeライブラリのドリル（理科）を3週間取り組む。**

I 検証結果から学力中位層の生徒に変化

前期期末テストと後期中間テストの得点推移



検証期間：9月（前期期末テスト）～11月（後期中間テスト）

区分①：81点以上 区分②：40～80点 区分③：39点以下

考察

学力中位層の生徒に一定の効果

前期期末テストと後期中間テストの得点差を比較すると、eライブラリを活用していない学級Aでは、区分②の18名のうち、1名の得点が向上した。一方で、eライブラリで学習した学級Bは、区分②の17名のうち、9名の生徒が10点以上も得点が向上した。

区分①と③は顕著な変化は見られなかった。

結果から区分②（40～80点）の中位層の生徒に、理科の用語・基礎基本の習得に一定の効果があったとのこと。

Ⅰ 検証結果から全学年の活用へ



▲ 出題された課題に繰り返し取り組む

繰り返し学習することが大切

1年生での検証結果から、国語・数学・理科・社会の基礎的な内容や用語の学習に、全学年が朝自習でeライブラリを活用するようになりました。

「基礎的な内容や用語は、繰り返し学習することが重要です。eライブラリは、同じ問題を何回も取り組めるところが良いです」と加来先生。理科・社会の用語など、毎日の朝自習を通して取り組ませることで、記憶の定着にも効果があったとのこと。

Ⅰ 日々の学習結果を学習評価の参考に

タスク名	期間	結果	平均点
ドリル学習 期間限定 夏休みの課題【数学】①正負の数～正負の数の加法と減法 素数 など26教材	2023/07/04～ 2023/09/15	全真	125/130
ドリル学習 期間限定 夏休みの課題【数学】②正負の数の乗法と除法～正負の数の 四則計算と利用 乗法の考え方 など26教材	2023/07/04～ 2023/09/15	全真	119/130
ドリル学習 期間限定 夏休みの課題【数学】③文字を使った式 文字を使った式 など11教材	2023/07/04～ 2023/09/15	全真	115/130

環境	氏名	進行度	正答率	時間(分)
■	■■■■	26 / 26	84%	33
■	■■■■	26 / 26	37%	63
■	■■■■	26 / 26	91%	31
■	■■■■	0 / 26	-	-
■	■■■■	26 / 26	80%	25
■	■■■■	26 / 26	54%	29

課題の取り組み状況を一覧で確認できる

紙教材は、真剣に取り組む生徒もいれば、形式的に答えを写すだけで思考しない生徒もあり、それらの把握は、何となく答えを写しただろうと推測していました。eライブラリを活用するようになってからは、生徒の取組時間や正答率から、何度も確認したり、やり直す様子が一目でわかり、声かけもしやすくなったとのこと。

課題終了状況	理解度	取組時間
進行度	正答率	時間(分)
26 / 26	84%	33

▲ 課題の取組状況を一覧で確認できる

【学習指示へ】→【グループ別へ】→対象の課題を選択

一人ひとりの取り組み状況を「主体的に学習に取り組む態度」へ

個人別概況 (クラス全体)

学年 中学1年 クラス 2組 氏名: -

学習学年 中学1年 教科 数学 期間 2023年度

教科別履歴 取組姿勢 学習行動 CSV

出題した合計教材数を基に
取り組んだ教材の学習回数

氏名	確認テスト		ドリル学習		解説教材 確認問題	
	実施回数	平均点	学習回数	平均点	学習回数	平均点
■■■■	6	80	374	80.6	6	80.6
■■■■	6	93.7	289	88.5	10	88.5
■■■■	5	76.4	282	69.8	19	69.8
■■■■	3	85	224	92.9	2	92.9

▲ 個人のドリル・解説教材等の学習回数を確認できる

【成績管理へ】→【個人ビュー】→【教科】【期間】

教材ごとの評価基準の例

- 期限を設定して、任意範囲の教材を出題する。(学習レベルは各担当が決める)
- 出題した合計教材数を基に、取り組んだ教材の学習回数を「主体的に学習に取り組む態度」の参考に
- 学習結果をCSVで書き出し、校務支援ソフトに貼り付けて管理する。

生徒が学習するときのルールを設け、全員へ同じ教材を出題することで、評価基準を定めることができ、公平な評価をできるとのことです。